

## 平成 19 年度 臨床検査精度管理調査報告会終了!

平成 19 年度日臨技臨床検査精度管理調査報告会が 3 月 8 日 (土) 午前 10 時から午後 4 時の間、東京・池袋駅近くの桐杏学園 6 階会議室に於いて開催された。昨年度に続き全部門を対象とした総合報告会で、管理者や精度管理責任者ら約 250 名が参集し、各部門ごとの調査結果と精度改善策について聴講し討議した。

前年に比べ 155 施設増の 3,325 施設と過去最多の参加を記録した。このことは、わが国最大規模の本精度管理調査に寄せる参加施設の意識の表れと受けとめることができる。対象部門も臨床化学、免疫血清、血液・凝固、一般、微生物、細胞、病理、輸血、生理機能、遺伝子と広範で、これもわが国随一にして唯一である。

各検査部門からの報告は、本年 2 月に発送された精度管理調査報告書に沿って、その要旨や注目すべき点について担当委員より説明がなされた。基本的に、臨床化学などの定量検査は、極端に厳しすぎる評価とならぬよう、施設ごとの調査結果を“○”、“△”、“×”で評価している。また、細胞・血液像・一般検査・微生物・生理機能・病理などは、フォトサーベイで判定基準や検査法の検証を行っている。評価のもととなる目標値や許容し得るばらつきの幅、また設問ごとの目標回答や選択基準の設定などに関して、長年検討を積み重ねてきたが、信頼性が高く効果的な調査に繋がるよう評価方法自体の標準化をさらに推進する必要がある。これらの点については、外部精度管理調査評価法検討・試料検討ワーキンググループを中心に、定量検査・定性検査に関する日臨技としての評価法指針を作成し「医学検査」の本年 1 月号に掲載している。

さて、日臨技は今年度より本格的な臨床検査データ標準化の実践に着手したが、本報告会の中でもこの事業の実施概要に関する説明がなされた。この事業は国家的規模で行われ、臨床検査技師が自らの社会的責任を果たすべく日臨技が主導となってデータ標準化を進めるものである。平成 20 年 4 月から特定健診・保健指導プログラムがスタートしたが、国民の健康増進や疾病予防を支える意義深い有用な臨床検査を更に発展させることに繋がる事業として捉え、職域の拡大へと繋げて行く必要がある。

臨床検査データ標準化事業と精度管理調査事業は車の両輪のような関係であり、両者が相互に補完し合いながら医療に有用な臨床検査情報の提供を目指すものである。全国規模の展開と地域単位での実践が組織的に融合することによって、国民にとってより適切で効率的な標準化が推進されることになる。

平成 20 年度の日臨技精度管理調査は、従来と同様のスケジュールで 6 月上旬に実施予定であり、すでに準備が進められているが、この事業をより積極的に活用することで更なる信頼性向上を実現していただきたい。

【細萱茂実】

## 平成 19 年度 NST 研修会開催される!

栄養サポートチーム、通称 NST (nutrition support team) は、個々の患者の栄養状態を客観的データにより評価し医学的エビデンスに基づいて栄養管理・支援する、チーム医療活動のひとつです。栄養管理実施加算や病院機能評価などにより導入施設が急増するとともに、評価データのひとつとして検査データが使われることから、臨床検査技師の参画を望まれる施設も増えています。

そのような背景もあり、平成 17 年度から開始した本研修会の参加希望者は年々増加しており、今回も募集 150 名を大幅に上回る希望があったため、会場の許す限りお受けし 167 名の受講者にて 3 月 16 日桐杏学園で開催しました。

研修会午前部では、埼玉医科大学総合医療センターの原島典子先生に「栄養療法の歴史的背景と認定制度」と題して栄養管理の必要性や認定制度についてご講演を頂きました。さらに実例として、焼津市立総合病院の新村宏美先生と公立学校共済組合関東中央病院の長谷川一幸先生に、それぞれの施設での活動内容についてご講演を頂きました。

正式な NST 活動が平成 16 年、平成 19 年と開始間もない施設のお二人のご講演は、受講者の方々にとって身近な内容であったのではないかと思います。

午後部では、社会保険中央総合病院の高添正和先生に「NST 活動における臨床検査技師に足りない知識」と題して、栄養不良に関して多角的な面からご講演を頂きました。また長野市民病院の亀子光明先生には、「NST 活動における臨床検査技師の役割」のご講演を頂きました。亀子先生からは、検査技師として望まれる役割が提案されました。そのひとつとして患者様のところに向く事が重要であると強調されていました。

検査データを単に出すことは、自動分析装置等の検査機器で十分出来ます。回診に参加しベッドサイドに出向き、他の職種の方々と活動するチーム医療は、自己研鑽とともに信頼のおける検査データを必要なタイミングと精度で出せる臨床検査技師となるきっかけになるのではないのでしょうか。

この研修会が、その一役になれることを期待します。

【高木義弘】

